

## 2月 雪山に生きる大型獸



### 野生のいぶき

湖国のフィールドから

動物写真家 須藤一成

11

今冬、伊吹山では12月中旬に1.5㍍を超える積雪となり、暖冬が続く近年としては早い根雪となった。ツキノワグマは冬眠に入り、雪に弱いニホンジカは食物を求めて山を降りた。2合目より上にはニホンジカの姿も足跡も見当たらない。雪山に残っている大型獸は、カモシカだけになった。

カモシカは雪の上に出ている樹木の冬芽や細い枝先を食べて過ごしている。1㍍以上もある雪の上に乗ることで、夏の間は届かなかった高い枝を食べることができる。首の長いキリンが、他の動物が届かない高い所の枝葉を食べるよう、カモシカは雪が積もることで夏の間シカが届かなかった高い枝を食べることができるようになる。前脚を幹や枝に掛けて立ち上がり、さらに高い枝を食べる。時には後ろ脚も枝に乗せて、完全に木に登ってしまうこともある。滑りやすい蹄で木に登ることはかなり難しそうだ。蹄をV字状に広げて、その間に枝を挟み込んでいる。樹木は冬芽や枝先の一部を食べられたくらいでは枯れてしまうことはなく、春になると再び勢いよく葉を繁らせる。

近年、爆発的と言えるほど増加したシカは、背丈が届く範囲の枝葉を食べ、立ち上がってまで食べることは少ない。食物が競合するカモシカとシカだが、この点ではカモシカのほうが有利である。しかしながら、現在カモシカは減りシカは増加している。シカが増えるとカモシカ

すどう・かずなり 1961年、京都府夜久野町(現福知山市)生まれ。イヌワシに魅せられ、滋賀を拠点に撮影に取り組む。米原市在住。写真集『Golden Eagleイヌワシ』(平凡社)など。



雪の伊吹山に暮らすオレンジ色のカモシカ。カモシカは一年中同じエリアで暮らしている

## 白銀に堂々、競合回避も姿減る



初夏、林床で休息中のシカの目の前を通り過ぎるカモシカ。シカは不安そうな顔をして見守っている

雪の上に出ていた樹木に前脚をかけて高い枝を食べる